

## 令和2年度第5回社会教育委員会議事録

### 第5回社会教育委員会議概要

○開催日時 令和3年3月26日（金）9時30分～11時00分

○開催場所 高浜町和田公民館

○出席委員 江上委員、大泉委員、亀井委員、川上委員、田中委員、谷口委員、畠中委員、福原委員、計8名

○事務局等 地域づくり支援課飯田課長、公民館担当村尾課長、中公民館有本館長、東公民館森下館長、南公民館前羽館長、大浦会館森川館長、加佐公民館関主任、城南会館西野館長、生涯学習支援係佐藤係長、秋本、小谷

### 1. 施設見学

・和田公民館内の見学

### 2. 開会挨拶

・福原会長より挨拶

### 3. 高浜町和田公民館 村宮館長から事業紹介

・ブルーフラッグについて

国際的に優良な海水浴場に与えられるブルーフラッグを取得。和田海水浴場一番の強みは水質がとてもいいこと。下水が一切和田浜に流れてくることがない。ブルーフラッグに認定される欠点は海へ動物を入れられないようになること。観光客に周知するのが難しかったが今は浸透して動物を連れてくる人が減った。

・和田について

和田の人柄は、民宿の歴史に関係するのか協力的で社交的な人が多い。海をきれいにするのも積極的に参加してくれる。高齢者も元気で、特に女性が積極的に講座等に参加している。男性の参加はあまりなく、公民館を支えているのは女性の高齢者。

若い人が多いわけではないが和田の高齢者比率は25%。他の場所は平均で40%あるが、和田はその中で一番高齢化率が低い。

年間利用者数22,000人開館日数295日平均利用者75人。

建物ができる前は5,000人ほどだったが新しい建物ができて利用者が増えた。

・施設について

調理室の利用はママさんたちが多い。研修室では読み聞かせしながら横で演奏するのに使っている。ふれあいルームでは自由にホワイトボードに落書きができる。音楽スタジオは利用者の半分が高浜町の人なら無料で貸し出し、ドラムなどの楽器を演奏できる。

#### ・今年度講座

今年の講座は多くても参加者を10人以内で考えていた。ブルーフラッグでインバウンドの観光客が増えているため、去年から英語の講座に力をいれている。外国人に話しかけられてもある程度反応できるように、逃げることはないようにと思って子どもたちが英語に触れる機会を作っている。他にも、茶道講習など外でできる講座は評判がよかった。

公民館講座は意外なものが人気あったりするので、こちらで判断せずに幅広く事業をしたい。女性職員などいろいろな目線から事業を考えている。公民館は地元の声がないとなにもできないと思っている。だから、積極的に町民と話す機会を設けている。そこで何をしたいのか聞く。町民が小学生とつながりたいなら間に館長が入る。そのように、人と人をつなぐのが館長の仕事だと思っている。

#### ・世代間交流事業

コロナで今年開催できなかったものもあるが、200人ほどの参加があった4館合同の星空観測やサザエ網はずし体験などめったにできないことをした。他にも、ホールでラグビーのパブリックビューイングをしたり、コロナ禍でも参加者がよく集まった。事業に障害者の方が参加された時、意外とその子に集中力があつたと親も館長も驚いた。事業に参加することで意外な発見があると思った。地元の人はどうな事業でも絶対断らず講師など協力してくれるので開催しやすい。

#### ・情報発信

公民館の情報はまめに発信を行っている。若い人はチラシをみないので事業のつどインスタで紹介している。ここから若い女性の参加者が増えている気がする。これからはインスタとフェイスブックの時代だと思っている。

#### ・リモートについて

年度途中から始めたことなので予算が全くなかった。〇〇がないからできないはいけない。Wi-Fiが無かったので、有線につながるようにした。zoomも無料の30分の使用だけでその後休憩をはさんで続きをするなど一円も使わずにした。優良公民館で評価されたのは、予算もない中、全部タダでできたところ。コロナでリモートが増えたおかげで今まで参加しなかった方が多く参加してくれたことが1番うれしかった。

新しい事業をするときはすべて完璧にしようとは考えていない。どんな結果になってもそれはそれでよい。辞めたり、やり直したりできるので最初は何でもできないと思わず、やってみることが大切。

## 4. 意見交換会

福原 東舞鶴高校で30年間教師をした後、どういった経緯、思いで公民館館長になったか。

館長 前任の方が辞めるのでなった。前の館長の引き継ぎは受けずに自分流でやらせてくれるならやると。

福原 今までの前年踏襲ではなしに、館長の思いを取り入れてなったということか。

館長 自分の思い通りにできるならやると言った。

江上 オンライン講座についてコロナが落ち着いてきたときにオンライならではの活用方法でなにか考えていることはあるか。

館長 まだ考えていないが、もし第4波がきたらオンラインを積極的にやっていきたいと思っているぐらい。自分の中ではあんなことができるとか少しずつ考え始めているところ。

江上 デイサービスなどオンラインだからこそできることがあるとおっしゃっていたので何かあるかと思い参考にしたかった。

館長 逆に心配なのがオンライン受ける側の方が密だったこと。画面をみんなで見るから仕方ないと思う。最初は向こうもこちらもわからなかったので大変だった。

大泉 館長の話は聞いていてわかりやすい。前職が学校の先生なら組織的運営や市役所と連携などの話にいきやすいと思うがここは違う。館長が外に出かけることも多く、館長の自由さを感じた。館長のように地域イベントや住民の中にずっと入っていくことはどんな感じなのか。どうやってするのか。

館長 生活の中心は舞鶴だったので周りからだれやと思われていた。地区委員会で人などを覚えていった。はじめは知らない人ばかりだったからこそ入りやすかった。お互い知らない人同士で興味を持っていた。

西野 講座で参加人数が少なかったときは予定通り開催するか。参加人数が少なかったら城南では辞めいているが和田ではどうか。

館長 人数が少なくてもやっている。染物教室も2人だったが開催した。ヒップホップダンスは0人だったのでやめた。

西野 少ないから辞めるとかはしないか。

館長 少ないから辞めるということはない。来年からやり方を考えたりほかの事業を組み合わせる工夫したりするようにしている。今回の染物とヒップホップダンスは来年度の事業からは外したが、今後どうしていくか考えていく。

谷口 今回和田公民館に来ることを楽しみにしていた。公民館の職員が社会教育とはどんなものか知る研修などあるのか。社会教育は名前だけで難しいとか、きちんとした発言をしないといけないと判断されやすいが、地域と一番接することが多い公民館の中ではどのように社会教育というものを考えておられるのか知りたい。

館長 高浜町では、社会教育委員と公民館職員と関わることは一切ない。高浜の社会教育委員が和田の公民館に来たこともないし、職員の研修もない。そういうところは館長として声を大にして、話し合いをしませんかと伝えたいと思っている。社会教育委員と公民館職員が関わっている舞鶴は進んでいると感心した。

職員 村宮館長はアイデアマンで、できないことはないと思っている。なので、講座はとりあえずやってみる。今まで好きな講座をしてきて、教育委員会からも否定されたことはないので、やりたいことをやっている感じ。

- 佐藤 かかとクリーム講座は一回やってみて、意外と人気があったというような感じか。
- 館長 それは講師からやりたいと依頼があって開催した。最初人気ないと思っていたが思った以上に参加者がいた。勝手に人気ないと判断して、最初かやらないのではなく、幅広く講座をやっつけていこうと思った。館長目線で考えないようにしようと思った。
- 佐藤 館長だけでなく、職員さんと一緒に考えて講座をやってみようと思ったのか。
- 館長 職員さんと住民と考えて一回やってみる。失敗したら改善すれば良いだけ。そう考えるとPDCAサイクルは良いようにできていると感じた。
- 森川 村宮館長には高校の時からお世話になっていた。自分が定年する年齢であるのに館長は前向きに考えているので自分の講座に参考にしたい。大浦の単発の講座では地元の地域の参加がほとんどない。地域の区長会、婦人会などに使われているだけ。和田公民館の利用者は和田の人なのか、高浜の人全体なのか。
- 館長 利用者は基本的に和田の人。和田の人が他の公民館に行くことはほとんどない。他の公民館より圧倒的に和田公民館で行う講座の方が多いため、逆に高浜の人が和田に来ることの方が多い。田舎やと地元の人に、講座来てもらうのは難しいと思うが展示会などしたら比較的地元の人が見に来ることが多い。和田で展示会をするときは地域の人がお手伝いに来てくれる。このように地域の人や小学生と結んで関わることは大事なことで意味がある。以前した流星群を見る会は、シート敷いて見て、楽しかった。大人もやったことがないので童心に戻るみたいで喜んでいて。その地域にしか体験できないことをすると人が集まると思う。
- 畠中 館に入ってきて感動したことは明るくて清潔感があったこと。館長の明るさなどで地域を引っ張っておられると感じ、参考になった。和田公民館は情報発信がうまくいっていると思う。若い人たちは紙よりもインスタを見ることが多いので今やっているSNSは効果的だと思う。情報発信でSNSを使って、嫌なことメリット、デメリットなどがあったら教えてほしい。
- 館長 今までやった中でいやなことはまったくなく、むしろ逆でもっといっぱい投稿してほしいと言われた。文章を長く書くと上げ足を取られることもあると思から、文章は極力短くしている。投稿する時に注意していることは、顔写真を載せること。大人は良いが子どもは気にしている。写真の許可はできるだけ取っているが、顔写真を載せて顔の部分にモザイクを入れるのは嫌だから後ろ姿をのせるようにしている。うちでは紙のチラシはほとんどない。今は紙よりも口コミの方が早いので、フェイスブックとインスタで発信している。そこから発信力のある人がほかの人に発信していき女性向けの講座の参加者が増えた。
- 福原 チラシはインスタのコードを載せておくようなものとして使っているのか。
- 館長 チラシはコードを載せて一応作っているが、公共施設にしか置いていない。各戸に配布することは辞めた。
- 畠中 魅力ある発信を心がけていることが分かった。

館長 職員が情報発信の研修に行ってくれて以前より、ユニークなチラシを作ることができた。

福原 チラシアプリはどんなものを使っているのか。

職員 パワポンという無料のアプリを使用している。県主催の情報発信専用の研修について大きく変わった。研修に行けて良かった。

福原 和田は高齢化率が低いときいたが関電の方と関係あるのか。

館長 関電職員はほとんどいない。社宅は 30, 40 人ぐらい。全盛期は 1,000 人ほどいた。

福原 最近移住した人はいたか。

館長 ライフセーバーなど来ることが多いが、移住者で仕事がない、住む場所がないと困っている方が多い印象。

福原 移住者と地元の人はどうに関わっているのか。

館長 ライフセーバーなどで入ってきた人は自分から関わってくれることが多くてやりやすい。自分からなにかあったら話しかけてくれる。ライフセーバーは浜掃除をしてくれるし、和田の地元の人も地区単位で浜掃除をしてくれているからそこから地域と移住者が交わったり仲良くなったりしている。

村尾 現役世代の人など多世代を結びつけることが大事だと思うので、单身の方や現役世代が参加しやすい仕事が終わった後や日曜日にそんな機会をつくろうと思うがどのようなことができると思うか。

館長 資料の 2.事業の考察の④公民館の課題に書いてあるが、和田でも男性や単身を取り入れることに苦労している。男性の料理教室やワインに合った料理など提案したが参加者がいなかった。次はパチンコぐらいしかでてこない。男性は公民館行事に無関心で小学生の男の子しか参加してくれない。今後、お酒に合う料理教室など考えているが難しくてできるかわからない。地元のおやじの会を使ったりしていかないと難しいと思っている。

田中 文化協会の課題は、同じように 30 代 40 代の利用が少ないこと。リモートで文化活動の講座を多くすることで男性やその世代の利用者を増やすことができるのではと感じた。

館長 リモート講座だと今まで参加したことのない人の参加が増えるので 30、40 代の利用者を増やせるかもしれない。

田中 リモートだといろんなことができるのではと感じている。一度リモートでやってみたが、タイムラグでうまくいかなかった。

館長 健康体操をリモートでしたが高齢者にはタイムラグがちょうど波長に合ってよかった。これも良い発見になった。

佐藤 以前の社会教育委員会議で小学校と公民館で連携したいが敷居が高いという意見があったがどうか。

前羽 学校で学ぶだけでは人に優しくすることなど欠けてくると思うので、その部分を学

べる社会教育は学校の教育と同じくらい大事だと思っている。でも、公民館講座にこない人を無理に呼ぶ必要はないと思う。公民館は住民に求められていることをすべきだと思うので参加者が少ないものは辞める。今後は、事業所を取り入れてなにか開催できないかと考えている。

館長 小学生は学校側から参加してくれる。どんな環境でも働き世代の方がくることは難しいので、中年層を取り入れることはできない。それでも取り入れようとする意欲のある公民館にしたいと思うが、無理だと思う。小学生の卒業生に和田に帰ってきたいとおもうかと聞くと19人中18人が帰りたいと言ってくれ、うれしかった。

龜井 前羽館長にお世話になって、ウォーキングマップを作った。学校と地域が協力して作ったもの。他にも公民館で開催予定だった書道展の作品を学校のホームページで掲載した。コロナで展示会は中止になったが小学生や地域の作品を紹介できてよかった。なかなか学校では時間が無くてできないことや、狙いのはっきりしない授業はできないので公民館で体験できるようになったら良いなと思った。そうやって、地域の中で子供たちを育てていきたい。

館長 最初きたころバケツの中に米作りをしていたが、子供がそれをコメ作りだと思ってはいけないので、実際の田んぼを借りてやらせてもらった。子供には本物を体験させないといけない。あれはダメ、これはダメなど考えることはよくない。公民館は町民をつなぐ役割があるカルチャーセンターだと思っている。関係を広げていくことも大事なのでそこも大切にしていきたい。以前小学生が多く来て、屋根に上って鬼ごっこをしていた。公民館で何をしていても注意することはほぼないが、そこだけは注意した。注意するとその子たちは公民館に来なくなった。子供にはあまり注意せずたくさんの人に来てもらいたいと思っているが危ないことは注意しないといけない。館長になっていい仕事ができていると思う。

## 5. 閉会挨拶

- ・ 谷口副会長より挨拶